

激化する豪雨と

第11回建設トッププランナーフォーラム

戦う地域建設業

第11回建設トッププランナーフォーラム(主催・建設トッププランナー倶楽部、後援・地方建設専門紙の会など)の開催が6月24日に迫った。「激化する豪雨と戦う地域建設業」と題し、災害時の初動対応や復旧の在り方について実例を交えて議論する。会場はイイノホール(千代田区)で、参加は無料。

インターネットによる実況中継も行う。今回のフォーラムは、全国規模で多発する豪雨災害に焦点を当て、建設業の「地域防災の担い手」としての役割を取り上げる。各地のトッププランナーの取り組みの紹介や鼎談(ていだん)、パネルディスカッションを行う予定。

また、来賓として石井啓一国土交通相、森山裕農林水産相を招くことになっている。申し込みは建設トッププランナー倶楽部のホームページ(<http://www.kentop.org/>)から。問い合わせ先は電話03(58876)8461

事例発表者、参加者は次の通り(敬称略)。

【第1部 豪雨による河川洪水との闘い】

▽関東・東北豪雨による鬼怒川洪水と宮戸川の災害復旧 五霞建設社長・菊地和幸(茨城県)▽高山豪雨(中山間地における河川氾濫) 新井組社長・新井裕輔(岐阜県)

【第2部 山地崩壊への新たな取り組み】

▽シラス台地と深層崩壊への地域建設業の闘い 豊明建設社長・林正英(鹿児島県)▽奇跡の茶畑 天竜建設業協会会長・長谷川智彦(静岡県)▽立山砂防からネパール砂防へ 丸新志鷹社長・志鷹新樹(富山県)

【第3部 鼎談 「激化する豪雨

の予報と対策」リスクコミュニケーションのあり方】

▽国土技術研究センター理事長・谷口博昭▽国土交通省水管理・国土保全局防災課長・平井秀輝▽気象庁参事官(気象・地震火山防災)・弟子丸卓也

【第4部 パネルディスカッション 「激化する豪雨と戦う地域建設業」】

▽パネリスト 国土技術研究センター所長・大石久和、国土交通省国土交通審議官・西脇隆俊、農林水産省農村振興局長・末松広行、林野庁次長・沖修司、長崎県建設業協会会長・谷村隆三、佐久間建設工業社長・佐久間源一郎(福島県)▽コーディネーター 建設トッププランナー倶楽部代表幹事・米田雅子

第11回建設トップランナーフォーラム

激化する豪雨と戦う地域建設業

「生命・財産を守る使命」持って

第11回建設トップランナーフォーラム(主催・建設トップランナー倶楽部、後援・地方建設専門紙の会など)が24日、東京・千代田区のイイノホールで行われた。今回は「激化する豪雨と戦う地域建設業」と題し、河川洪水や山地崩壊に対峙(たいじ)してきた各地域のトップランナーの活動を紹介。昨年9月の「関東・東北豪雨」で応急復旧に当たった五霞建設(茨城県)の菊地和幸社長は、「災害時に地域の生命・財産を守る、との使命を持って作業に当たった」と語り、豪雨災害との困難な戦いを報告した。

倶楽部の代表幹事を務める米田雅子慶應義塾大学特任教授は、「地震や火山噴火、記録的な豪雨・豪雪など災害外力が高まっている中、人々の暮らしや社会基盤をいかに守るかが、地域建設業の大きな課題」と述べ、第11回フォーラムの開催趣旨を説明。その上で、地域建設業が担う役割について「災害時の初動対応や復旧工事に加え、国土強靱(きょうじん)化に関わる挑戦も始まろうとしている」とし、今後の取り組みに期待を寄せた。

豪雨災害に関する事例発表では、菊地和幸社長が宮戸川(古河市)の災害復旧の過程を報告。「道路が冠水によって寸断され、パトロールすら困難だった」と当時を振り返った。また、「自分が市民であつたら何を知らたいのか」との考えの下、フェイスブックで情報発信した際に「ありがと」という感謝の声や、「災害復旧、頼るべきは建設業かな?」といった反応が市民からあつたことを紹介した。

また、新井組(岐阜県)の新井裕輔社長は、川の増水で橋梁が流出するなど、甚大な被害が発生した2014年8月の高山豪雨への対応を報告した。

フォーラムではこの他、山地崩壊への取り組みを豊明建設(鹿児島県)の林正英社長、天竜建設業協会(静岡県)の長谷川智彦会長、丸新志鷹(富山県)の志鷹新樹社長が説明。豪雨災害に関する鼎談、パネルディスカッションでは、国土技術研究センターの谷口博昭理事長や、

国土技術研究センターの大石久和所長らが意見を交わした。



関東・東北豪雨への対応を報告した五霞建設(茨城県)の菊地社長

建設トップランナー倶楽部

参加受付を開始

6月24日にフォーラム開催

建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子 慶應義塾大学特任教授)は、第11回建設トップランナーフォーラムの参加申し込み受付を開始した。6月24日にイイノホール(千代田区)で開催する今回は、「激化する豪雨と戦う地域建設業」をメインテーマに掲げ、地域建設業が自然災害にどのように対応すべきかを議論する。

申し込みは倶楽部ホームページ(<http://www.kentop.org/>)の専用フォームで受け付ける。参加費無料。また、当日はインターネットを通じた実況中継も行う。

第11回フォーラムのプログラムは次の通り。

■第1部・豪雨による河川洪水との闘い

▽平成27年9月関東・東北豪雨による鬼怒川洪水と宮戸川の災害復旧▽平成26年8・17高山豪雨(中山間地における河川氾濫)

■第2部・山地崩壊への

新たな取り組み

▽シラス台地と深層崩壊への地域建設業の闘い

▽奇跡の茶畑▽立山砂防からネパール砂防へ

■第3部 鼎談(ていだ)

ん)・激化する豪雨の予報と対策ーリスクコミュニケーションのあり方ー

■第4部 パネルディスカッション・激化する豪雨と戦う地域建設業